

日本原子力学会 標準委員会 基盤応用・廃炉技術専門部会
第10回 風洞実験実施基準分科会(ph2.10)議事録

1.日時 2016年7月11日(月) 10:30~12:30

2.場所 日本原子力発電(株)本店第4会議室

3.出席者(順不同, 敬称略)

(出席委員) 北林(主査), 佐田(副主査), 伊藤(幹事), 市川, 道岡, 山澤, 近藤, 筑紫,
中山, 岡林, 馬淵, 渡辺, 千葉, 野田, 山内[一条代理](15名)

(欠席委員) ー

(常時参加者) 沼田

4.配布資料

ph2.10-1 第9回風洞実験実施基準分科会議事録(案)

ph2.10-2 Effect of Additional Structure on Effective Stack Height of Gas Dispersion
in Atmosphere

ph2.10-3 風速の観測データ変更時の風洞実験要否の目安について(案)

ph2.10-4 風洞実験実施基準の改定について(中間報告)(案)

ph2.10-5 風洞実験実施基準改定案コメント集約結果

ph2.10-参考-1 標準委員会 基盤応用・廃炉技術専門部会 風洞実験実施基準分科会委員
名簿

ph2.10-参考-2 風洞実験実施基準改定案(2016.07.11版)

5.議事録

(1)出席委員の確認

代理委員を含め 15 名全員が出席しており、定足数(10 名以上)を満足していることを確認した。

(2)前回記事録の確認

Ph2.10-1 により前回記事録を確認した。

(3)分科会委員の交替

IHI 一条委員の退任並びに IHI 山内委員の選任が承認された。

(4)原子炉施設内の地形改変が安全解析における放出源の有効高さに与える影響について

岡林委員から ph2.10-2 及び ph2.10-参考 2 に基づき附属書 A の改定案が説明され、審議の結果、以下の意見を反映し改定案を修正することになった。

1)段丘・盛り土・防潮堤高さ等を示す Hg が二通りの意味合いで使われているので、誤解を招かないよう、図 A.1 に参考図(ph2.10-2 の Case3 の図)を追加して定義を明確化する。

2)[質問]構築物の影響度の大きい時に”影響”確認するとしていることの解釈は？

⇒再実験又は技術的な検討という意味である。

(5)風速の観測データが変更となった場合の影響について

沼田常時参加者より ph2.10-3 に基づき、風速の観測データが変更となった場合の放出源の有効高さへの影響を附属書 A 改定案が説明され、審議の結果、以下の意見を反映して改定案を修正することになった。

1) “風速の観測データが変更となった場合”の具体的例を追記した方が良い。

2) 改定案 6 行目は、”・・・ほぼ 10%以内である。このため、風速の・・・”の方が良い。

3) 放出源高さが高くなる場合は、有効高さが高くなり安全側に働くため、本記載は放出源高さが低くなる場合に対する目安にする。

4) 放出源高さの変化率が-10%を下回る風向のみ再実験を行うことが分かる記述にする。

(6)中間報告書(案)について

伊藤幹事より ph2.10-4 に基づき、中間報告書案が説明され、審議の結果、以下の意見を反映するとともに、各委員に ph2.10-5 のコメント集約結果反映結果を確認して頂くことを前提に 9/5 開催予定の専門部会に報告することが了承された。

1) “公衆審査時の異議申し立て”は、“公衆審査後の意義申し立て”に変更する。

2) “建屋・構築物”との表現は、本文と同じ”防潮堤・建屋等の構築物”に変更する。

3) 参考図中の“有効高さ”は”放出源高さ”に変更する。

(7)風洞実験実施基準改定内容について

沼田常時参加者より ph2.10-5, ph2.10-4 付及び ph2.10-参考 2 に基づき, 風洞実験実施基準改定案に対するコメントを集約した結果が説明された。

各委員コメントへの回答を確認して意見がある場合, 又は新たなコメントがある場合は 7/31 までに沼田常時参加者まで提出することになった。

その後、改定案への反映状況を ph2.10-4 付の改定版で確認して貰った上で, 中間報告を行うものとした。

(8)今後の予定

次回は 10 月中に開催するが, 日程は別途調整することとした。

以上